



鶏 鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『だれでも高ぶる者は低くされ、
へりくだる者は高められる』

聖書(ルカ福音書18章14節)

牧師 河合裕志

イエスはこんなたとえ話をする。それは「自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々」を念頭に置いたもの。二人の人が祈るために神殿に。一人はファリサイ派の人、もう一人は徴税人。

ファリサイ人の祈り、「神様、わたしは他の人達のように奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、またこの徴税人のような者でもないことを感謝します」。誠に立派な祈り、非のうちどころがない。一方徴税人は支配者ローマの手先になって同胞より税を取りたて、人々からは売国奴と呼ばれていた。また税額をチョロマカス者もいて盗人と言われていた。

徴税人はどんな祈りを。彼は目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。「神様、罪人(つみびと)のわたしを憐れんでください」。

以上がイエスのたとえ話、作り話。でもこれは大いにあり得る状景。ファリサイ人は実際そういう人達だった。キリスト者になる前のパウロも以前はユダヤ教の中でも厳格なファリサイ派に属し、律法の要求を完全に満たそうと努力していた。

さてイエスはこの話のあとこう述べる。「言っておくが、義とされて家に帰ったの

は、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる』。

これはイエスによるどんでん返し。イエスはこれが得意。誰もが神によって義とされて、つまりヨシとされ神の祝福に与るのはファリサイ人だと思う。徴税人のようなくだらない人間は義とされっこないと。

しかしイエスの見るところ、そうではなかった。なんでこんな逆転が起る。それは高ぶるか、へりくだるかをめぐって起る。残念ながらファリサイ人は見事高ぶってしまった。オレは正しい人間だ、他の連中はなっていない。こう思うところがまずかった。一方の徴税人は自分の罪を自覚し誇るところがなかった。ひたすら神の憐れみを、赦しを願ってる。ここがよかった。イエスには気に入った。

私達はいつも他人と比べてこっちの方がいくらかマシだと思ってる。でも全てを見ている神の前に立ったら、あるいはイエスの生き様と比べて見たらどうなんだろう。ずい分とアラが見えてくるんじゃない。そんな私達には徴税人の祈りしかないんじゃない。

こんな祈りを神は待っている。

集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分

主日夕拝 : 毎日曜日午後6時

子どもの教会 : 毎日曜日午前9時

中高青年会 : 毎日曜日礼拝後

おしゃべり会 : 毎木曜日午前10時

聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時